

平成25年7月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成25年7月23日 (火曜日)		
2 開会及び閉会	開会	14時00分	
	閉会	15時20分	
3 出席委員	委員長	渡辺勝志	
	委員	塩田澄子	
	委員	曾田佳代子	
	委員	東條光彦	
	委員(教育長)	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	橋本拓治	教育次長	渡辺和夫
統括審議監	佐々木辰昭	審議監(学校教育担当)	天野和弘
審議監(生涯学習担当)	直本正明	教育企画総務課長	長瀬尚樹
指導課長	堀井博司	指導課人権教育担当課長	梅原信芳
生涯学習課長	丸川康一	中央図書館長	宮本嘉彦
文化財課長	乗岡実	オリエント美術館長	大利昭塚
スポーツ振興課長	畑太志		
事務局(教育企画総務課課長補佐)	高木宏	事務局(教育企画総務課主任)	宗田朋子
5 議題及び結果			
第25号議案	岡山市教育振興基本計画における成果指標現状値未把握項目の目標値等の設定について 原案可決		
6 教育長等の報告	[平成25年6月15日(土)～平成25年7月12日(金)]		
6/15	埋蔵文化財講座遺跡が語る岡山の歴史第2回		文化財課
6/15	幼稚園の先生と遊ぼう		文化財課
6/29	リズム遊び		文化財課
6/29	土曜授業標準実施日		指導課
7/1	P T A人権問題研修講座		指導課
7/2	いきいき学校園づくり		指導課
7/3	いきいき学校園づくり		指導課
7/5	いきいき学校園づくり		指導課
7/5	P T A人権教育実践研修講座		指導課
7/5	特別展「古代ガラス～色彩の饗宴」開会式		オリエント美術館
7/8	いきいき学校園づくり		指導課

7/8	P T A人権問題研修講座	指導課
7/9	いきいき学校園づくり	指導課
7/10	いきいき学校園づくり	指導課
7/11	P T A人権教育実践研修講座	指導課
7/12	いきいき学校園づくり	指導課
7/12	P T A人権教育実践研修講座	指導課

委員長 生涯学習課長	<p>○ まず、図書館関係の報告を願う。</p> <p>○ 図書館の検討チームの報告書に対して、教育委員からいただいていた意見をまとめた資料の内容について説明する。</p> <p>1 番の「図書館の開館時間が他の政令市に比べて少ないので、何とかならないか」という意見についてだが、今後の教育委員会としての在り方の素案の中で最優先すべき課題の一つとして考えており、今後、さらに市民が利用しやすいような開館時間となるよう工夫したい。4 番の「経年変化を示す表やグラフの年数がバラバラになっているものについて」は、岡山市立図書館の在り方検討チームの報告書では平成19年度から～平成23年度までになっているが、今後、教育委員会としての素案を作る段階では、原則として平成20年度から24年度までの5年間のものを使うよう対応したい。8 番の「高齢者等足が不自由で図書館に来ることができない人に家庭配本や郵送貸出は無理か。子どもや身体者障害者に対するサービス等はやっているが、高齢者向けの取組について、何かできないか」という意見については、費用面も含めて今後研究していきたいと考えている。</p> <p>10 番について、「学校司書の全校配置など、岡山市の良い取組について記述したらどうか」という意見については、特徴的なことは具体的に記述していきたいと考えている。11 番の「学校へ図書の配送はしているのか」という件に関しては、今は取組事例に入っていないが、学校への具体的な取組事例に追加してやっていきたい。それから、12・13 番の「特徴的な取組事例はどれか、重点をもう少しわかりやすくしたらどうか」という意見についてであるが、先ほど申し上げた「学校への資料配送体制の構築」を加えた49の取組事例を、最優先すべきもの、3年～5年の中期でやっていきたいと考えているもの、長期と、大きく3種類に分け、重点項目についてはわかりやすくしていきたい。19 番の「市民の意見や中高生の意見をどういったかたちで在り方の中に反映させていくか」であるが、教育委員会としての素案ができた段階でパブリックコメントを実施する予定である。また、社会教育委員会議に中高生にも来てもらって、意見を聞きたいと考えている。今回、岡山市全体として市民意識調査をするので、その中で図書館のことについてもアンケートをとりたい。今後、短期・中期のアクションプランをやっていく中で、別の項目として必要であれば検討していきたい。もう一枚の資料の「具体的な取組例について」であるが、先ほども申し上げたが、「学校園への資料配送体制の構築」を追加している。最優先すべきものとしては、「インターネット予約資料の受取等ができる公民館等サービス拠点の拡充」「効率的で迅速な資料配送体制の構築」「利用しやすい会館時間、開館日の設定」「E S D 関連資料などテーマ別資料の展示や関連資料を集めたコーナー設置」、この4点を最優先に取り組んでいきたい。後は、中期の項目が11項目と、附則的な項目が34項目、全体で49の項目についてやっていく必要があると考えている。</p> <p>この中に入っていない意見についてもまたいただければと思う。</p>
委員長	○ 前回の協議会で出た意見を入れてということだ。今の説明への質問、その後、気がついたことはないか。
委員長 生涯学習課長	○ この一覧表だが、何かにつけるのか。今回の説明のためにまとめただけか。 ○ 今後、教育委員会としての素案を作っていく中で、まとめておいた方がわかりやすいのではないかと考えて作成した。
委員長	○ 今後見る資料であれば、一覧表のゴシック体部分が見にくいので、斜体にするなど、はっきりとわかるように修正してほしい。
委員長 生涯学習課長 曾田委員	○ 今回は、重点と中長期までを説明したということによいか。 ○ そうだ。 ○ 具体的な取組例の説明があったが、「在り方」という報告書は、実施計画まで記載するのか。中長期の目標もこの中に記載するのか。
生涯学習課長	○ 具体的な中身はアクションプランに掲載するが、ある程度の優先的なものはいくつか入れたほうがよいと思った。
曾田委員	○ ただ単に、在り方の方向性だけでなく、中長期の目標も入れ込んでいくと考えたらよいということか。

生涯学習課長 教育長	○ そうだ。 ○ 最終的には教育委員会としてまとめていくことになる。今は、事務局案の段階で、これから素案から成案にしていく。成案になると、教育委員会案になる。こちらの意見を入れながら整理をしていくことになる。
曾田委員 教育長	○ アクションプランは図書館だけに限定したものがいいのか、教育委員会全体のアクションプランに入れるのかがわからなかった。 ○ 今回は、図書館の在り方について。将来的には、どうしてもハードの整備と関連してくる。それまでの段階の中で、整理しておけるものは整理しておきたい。この中で言えば、インターネット予約資料のサービス拠点の拡充をはじめ、ここに挙がっているものは重視し、改善していくという言い方になっていくのだと思う。それを基にその次の段階としてハード整備をどうするのかという段階になっていく。
委員長 塩田委員	○ 他に意見はあるか。 ○ 図書館の在り方についての報告書の32ページ、大学・専門・各種図書館との連携のところは、大学にとっても宣伝効果がある。市立図書館でこの大学に行けばこういうことが調べられるという情報を出していただければ、大学にもメリットがある。取組例として出しているが、何か具体的なことをしているのか。進む方向性は。
中央図書館長	○ 今、実際にやっているのは、利用者の方からリクエストがあったもので、市立の図書館にも県立の図書館にもない図書については、大学図書館を紹介させてもらっている。岡山市内のほとんどの大学の図書館は市民の方も借りられるようになっているので、大学へ足を運んでもらうなり、こちらで本を取り寄せるなどしている。委員が言われたように、大学の図書館を市民も利用できることを知らない人もいるし、どういった蔵書を持っているのかわからないということもあるので、図書館からも働きかけて大学等と協議し、市民の方が利用しやすいように、ホームページや館内掲示で案内していければと思っている。
塩田委員	○ 私は、さんかく岡山の委員をしているのだが、先日の会議で男女共同参画の関係の図書を充実させていきたいという話をされていた。そういうことなら、図書館と協力したらどうかと提案した。例えば、図書館で男女共同参画の関連の本はさんかく岡山が充実しているということがわかれば、そこに足を運ぶ。さんかく岡山も来館数が上がってお互いに良いのではないと思う。さんかく岡山だけでなく、岡山の機関が持っている図書を市民に紹介するシステムがあれば良いのではないか。
中央図書館長	○ 現状として、さんかく岡山がどういった蔵書を持っているのかなど、十分把握・連携ができていないので、そういったことをお聞きしながら、情報共有しながら、図書館からアドバイスや支援ができるのかなど検討していきたい。今後の課題だ。
委員長	○ 各施設に専門の図書がある。さんかく岡山も法律相談で時々訪れるが、関連の本が並んでいる。ああいったコーナーは市立の図書館にはないのか。
塩田委員 委員長	○ DVDは充実しているらしい。 ○ さんかく岡山の他にも特定の分野で充実した図書を持っている施設はあるのか。
渡辺次長	○ さんかく岡山は、政策目的を持って建てられているので、男女共同参画関係の図書は一定程度そろえているが、他の施設で、そこまでの個別の政策目的を持っているものはあまり思い浮かばない。そういった施設があるかどうかも含めて調べていきたい。
委員長 渡辺次長 中央図書館長 委員長 中央図書館長 委員長 委員長 塩田委員 指導課長	○ ふれあいセンターはどうか。 ○ 逆に図書館の図書をまわしている。 ○ 図書館の本の受け取り場所になっている。 ○ ふれあいセンターには、福祉関係があったような記憶があるが。 ○ 情報コーナーがある。 ○ 他に意見はないか。ではよろしく願います。 ○ 事業報告を見ての意見は。 ○ 気になるのは、6月29日の土曜授業の様子。 ○ 今年度から、年3回以上の土曜授業の施行を実施している。標準日を設けていて、1学期の標準日が6月29日であった。この日に実施が困難な学校については、別の日に実施するが、1学期に1回実施しようということになっている。6月29日については、小学校67校、中学校20校の学校がこの日に実施した。内容は各学校が工夫を凝らしながらやっているが、趣旨としては、土曜日に学校授業を行うことで、教育課程全体を見直すきっかけづくりになるだろうという部

分と、地域や保護者への公開ということで、開かれた学校づくりという部分もある。そうした目的を持って実施している。土曜授業に来られた方にアンケートを書いてもらい、指導課で回収している。アンケートの内容は、土曜授業の実施について「良いことだと思う」「どちらかというが良い」「どちらかという良くない」「良くない」の4段階のもの。もう1項目は、どの程度実施するのが良いかという内容だ。福浜小学校を例にすると、「良いことだと思う」が64パーセント、「どちらかというが良い」も含めると88パーセントの方が土曜授業の実施が良いことだと答えている。この傾向は、ほぼ、どこの学校も同じであった。

実施の回数については、月1回ぐらいやってもよいのではないかという意見が一番多かった。来られている保護者や市民の方は、基本的には賛成の方が多く、しかも、実施してほしいという立場で多いのは、「家にいるよりは」という保護者もいれば、「自分たちの頃はやっていたので」という保護者など、そういった賛成意見がある。また、実質的に開かれた学校づくりということで、土曜日等に実施すれば子どもの様子を見ることができて非常に良いという意見などがあつた。色々な意見を集約しながら検討していきたい。なお、このことについては、文部科学省が、土曜授業の検討チームを作っている。検討チームが先般、中間報告を出した。秋までには法の改正等も含めて国としての結論を出すということになっているので、その動きを見ながら、こうしたアンケートや様々な立場の方のご意見を聞きながら検討していく。

- 曾田委員 ○ 普通の授業をした学校と、保護者対象の参観日にした学校など活動の割合はどうだったのか。
- 指導課 ○ 2・3校時まで授業をして、その後、保護者が聞けるような講演会をしたり、保護者と子どもたちと一緒に避難訓練をしたりした学校が多かったようだ。純粹に授業だけの学校は少ない。保護者対象の講演会や触れ合い、子どもと保護者と一緒になっての活動を取り入れている学校が多い。
- 曾田委員 ○ 試行で1回目だから結果はわからないだろうが、3回したら教職員へゆとりがでたのかどうかを聞いていただきたい。
- 委員長 ○ 自分にも小学生の子どもがおり、保護者の立場で行ってきた。子どもは朝起きるときは、不機嫌だったが、参観日ということで、親や祖父母が来ていて、にぎやかな感じだった。その小学校は普通の参観日で、最後に、1人ずつ確認しながら親に渡す引き取り訓練をしていた。昨日、幸島小学校の祭で校長と話をした際に、海のそばなので、裏の高台に上がっての引き取り訓練をし、うまくできたと言っていた。各校で工夫してやっている様子が見てとれた。先ほどのアンケートには、私も良いことだという項目にマルをして返した。私が見聞きした範囲ではそういうことだった。私が行った小学校ではなごやかにやっていたという感じがしたが、全体がどうだったのか色々お聞きしたい。
- 教育長 ○ 国も、以前は問い合わせをすれば答える程度だったが、積極的にちょっと動き出したように思う。
- 曾田委員 ○ 岡山県内もあちらこちらの市町村で取り組みだしたから、回数が増えるだろう。
- 委員長 ○ 授業そのものにプラスして、教育長がいつも言っている午後の時間で先生にゆとりができたという話はないか。
- 教育長 ○ 1日勤務にしたところはあるのか。
- 指導課 ○ 数はわからないが、1日勤務にして、午後からは教職員の研修や会議をした学校もある。平日にやっていた会議を土曜日に行った学校もある。
- 教育長 ○ 午後の自由な時間の中で教職員同士が親睦を深めた例がないか。そこまでは調べてないか。
- 指導課 ○ まだそこまでは把握していない。
- 曾田委員 ○ 親睦の内容にもよるが、土曜日の午後はリラックスした雰囲気があるので、しゃべり場程度のことはできる。
- 教育長 ○ 6月29日は、岡山市の平和の日に重なっていた。学校によっては、市民会館に来ていた学校もある。色々な都合があつたが、多くの学校がまとまってできた。
- 委員長 ○ オリент美術展のガラス展についてだが、7月15日までに2,000人となっているが、滑り出しはどうか。
- オリент美術館長 ○ 委員長には5日の開会式にお越しいただき、ありがとうございます。山陽放送の社長もお越しになり、大英博物館からも担当キュレーターにお越しいただき、盛大に開会式ができた。7月21日(日)までの来館者数が2,935人。順調に滑り出しているが、これから夏休みやお盆に入つてのさらなる来館者増期待して、山陽放送とともにPRに努めていく。副専門監からもう少し細かい説明をさせてもらう。
- 学芸副専門監 ○ 秋であれば学校単位のグループの入場が多いが、夏休み期間に近づいてきて家

族連れや、個人が多いと思う。今までには、倉敷市の琴浦高等支援学校30名の団体、本日、朝日高校の百数十名の入場があった。子どもたちの入場者数は、小中学生が約70人、高校生・大学生が80人ぐらいだ。これから夏休みに入ってもう少し増えるのえはないかと思っている。

会期中にはワークショップやイベントを開催する。ガラスの専門家を呼んでの講演会やフォーラムを7月20日、21日に開催したばかりだ。8月に、スタンドガラスの簡単なものを作ってみようという小学生から参加できるワークショップをガラス工芸家の先生にお願いして4回開催する。例年開催しているが、ジュニアオリエント教室と題して月曜日の1日を小中学生に開放し、古代ガラスを見ながら、プラスチック板で簡単にちぎって作れるモザイク画を作るという行事を8月19日に予定している。

ワークショップは15人～30人の少人数のものなので、入館者数に大きく貢献することではないが、子どもたちに質の高い経験をしてもらうためにこうしたことも検討している。

曾田委員

○ アッシリアレリーフのそばのつぼをセットで展示してあったり、すごいと思っている。広報についてだが、今回の特別展は、倉敷リハビリテーション学院が主催になるのか。岡山市の主催か。

学芸副専門監

○ 倉敷リハビリテーション学院が来年度開講予定であり、スポンサーになっていただいている。同学院には、山陽放送を通じてテレビスポット広告を出すときの費用を負担していただいている。展覧会本体に直接出資していただいているわけではなく、テレビ広告をリハビリテーション学院のスポンサー料で出させてもらっている。その他、山陽放送にはニュースやラジオ番組中で広報に協力していただいている。我々職員も毎週1回ラジオ出演をさせてもらっている。また、チラシ・ポスターを5～6万枚作成し、県内の小中学校、高校、大学、主な社会教育施設、郵便局に送付している。ポスター1枚でもはっていただければという思いで、地味な取組もしている。主催は、岡山市教育委員会と山陽放送。倉敷リハビリテーション学院は特別協賛だ。

曾田委員

○ お金がかかることだろうと思って見せてもらった。あの時代に創作的なガラスの細工ができることを子どもたちにも見せてやりたいと思ったので、しっかり広報したらよいかと思う。

塩田委員

○ PTA人権問題研修講座とPTA人権教育実践研修講座の違いは何か。

人権教育担当課長

○ 人権問題研修講座は、個別の人権課題をテーマにした講座であり、講演の後、参加者でグループを作り、意見交換をする形式。年度ごとに人権課題をバランスよくとりあげること続けてきた。後者は、演習を伴う講座である。リーダー研修会の講演講師である、えんばわめんと堺の北野さんに、演習を取り入れた講座をしていただいた。もう一講座は、キャップ岡山の方に来ていただき、講演と演習をしてもらった。

今年度は、講座にテーマ性を持たせ、「子どもを中心に据えた教育を目指して」というテーマで結びつけてみた。チラシを作ったり、講座ごとに次のような話しをさせていただいたりしている。どんな話しかというと、社会問題になっているいじめ、不登校、児童虐待や体罰に向き合うときに、子どもを中心に据えながら考えていくことだというもの。7月1日の人権問題研修講座は、「イチャモンを超えて」や「モンスター・ペアレントを超えて」など、様々な著書を出されている大阪大学の小野田正利さんに、保護者と教職員の相互理解、家庭と学校のつながりについて、子どもを中心に考えましょうということで話をしてもらった。

当然、キャップ岡山についても、北野さんについても、子どもの人権を守る、人権を理解するという観点から演習をおこなっていただいている。

塩田委員

○ 対象は、PTAの役員だと思うが、モンスターペアレントなどの話を聞いてもらいたいのは、一般の方と思う。自分もかつてこうした勉強会に参加させてもらって感じたことであるが、自分はすごくためになったが、自己満足で終わって皆さんに伝える機会がなかったと反省している。学校で伝える機会はあるのか。

人権教育担当課長

○ 振り返りのアンケートをとっていて、今回のめあてについて自己評価してもらっている。参加された方は、高い自己評価をしている。記述式で自身が気付いたことや、これからは生かせそうなことを書いてもらっているが、その中に、ご指摘いただいたような「このことを広げていくということが課題」という意見があった。我々としては、市教委が主催する今回のような研修を各学校園でも開催することで、つなげてもらえたらと考えている。人権問題実践講座も夏休みまでで終わるようにしている。学んだことをPTA研修で報告していただくことや、6月6日のリーダー研修会では、学んだことを広げたり報告したりすることをお願いしている。また、紹介をした講師の方を、各学校園での研修会に広げていた

曾田委員	<p>だけの可能性も期待している。PTAリーダー研修会で、各学校園でどういう方をお招きしているのか、という情報等も提供しながらやっていただくことを考えている。</p> <p>○ 小野田先生が講師であれば、教職員対象の方が良いのではないかと思う。教職員の方が保護者の捉え方の間違いをしている時もある。保護者向けや教職員向けなど、色々ミックスして広げていけば良いと思う。これだけの回数実施するのは大変なことだ。講師を選ぶだけでも大変。普遍的になるようなことをすればいいのではないかと思う。</p>
委員長	<p>○ こうした会に参加する方はそもそも意識が高い。そうでない方に聞いてほしいが、難しい。いろいろ工夫してほしい。</p>

7 議 事 の 大 要

委員長	○ 7月定例岡山市教育委員会を開催する。
委員長	○ 本日の傍聴希望者はいない。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 日程第2、4月定例会の議事録に問題はないか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 日程第3、教育長等の報告、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)
委員長	○ 議事に入る前に会議の公開・非公開について諮る。日程第4の第26号議案は、附属機関等の委員の任免に関する事項として、会議規則第9条第1項第2号に該当、第27号議案は、会議を公開することにより教育行政の公正かつ円滑な運営に著しい支障が生ずるおそれのある事項として、会議規則第9条第1項第6号に該当するため、非公開としてよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ それでは先の議題は非公開とする。
全委員	○ 日程第4、第25号議案を説明願う。
委員長	○ 説明(第25号議案の資料に沿って説明)
教育企画総務課長	○ 質問、意見はないか。
委員長	○ 主体的に学び続けるこどもの育成の政策の中で、学習習慣の定着度の上昇について、中学生の目標値が49パーセントになっているが、これは、既に掲載してある項目か。目指すところが低いという気がする。32年度までに見直すということなので言いにくい、目指すところが低すぎるのかという気がするがどうか。学力をつけるという結果を聞いているわけではなく、定着させればよいという観点であれば、もう少し目標値が高くても良いのではないか。ただ、何を根拠に数字を出せばよいのかといわれればわからないが、気持ち低いというのが感想だ。
曾田委員	○ 学ぶ意欲の定着度の上昇や学習習慣の定着度の上昇の部分だが、これは、すでに設定して教育振興計画に盛り込んでいる部分だ。ただ、言われるとおり、岡山の大きい特徴として、自宅での計画的な学習、家庭での学習習慣が岡山ではウィークポイントだ。遠因かもしれないが、その改善が学力向上につながっていく可能性が非常に高いと思っている。家庭でのご協力もいただきながら、子どもに寄り添って学習習慣を粘り強くつけていく。その改善が学力向上につながっていく。今回、7月に発行した教育広報紙「こらぼ」でも、学習習慣をつける家庭でのポイントについても示させていただいている。申し訳ないが、この部分は既に記入してあるので、次回の見直しの時に、我々の思いも含め、具体的な計画をもって積極的に考えていく必要があると思っている。実際問題として、ここ何年かの全国学習状況調査を見ると、伸び悩んでいるという状況だ。伸び悩みの実態から、この辺に目標設定を置いている。どんな効果的な事業があるのかを考えつつ、指導課とも連携をとって、見直しの大きい対象の一つとして考えていきたい。
教育企画総務課長	○ もう一つ、目標値が低いのではないかと思ったのが、岡山を愛する心と国際感覚の育成のところ。「外国の人や文化に興味・関心がある子どもの割合の上昇」の中学生の目標値が55パーセントのところだ。全国的に小学校でも英語活動が定着している時代になっているし、時代が変わっていくことを考えると低いのではないか。指標を一覧表にしてみても気が付いたことだが、外国の人に話しかけられたら、進んでそれに答えると答えた子どもの割合というのが、指標としてふさわしかったのかと思う。あいさつをした人がアジア系なら外国人かどうかもわか
曾田委員	

	らないこともあるだろう。いまさら指標を変更することではないが、この指標を使うなら、もっと高くてもいいのではないかと思う。他の委員がどう感じられているかだが。
塩田委員	○ 確かに、地域の歴史や自然に興味・関心がある子どもの割合が、中学校になるとずいぶん下がっていて、半分以下の子どもが興味がないというのは、目標値として寂しいと思う。
教育企画総務課長	○ 今、外国語活動について、やや地域格差ができていないかという指摘が出てきており、文部科学省が外国語活動に先進的に取り組んでいる小学校の1,600校程度を実態調査し、間もなく結果がでると聞いている。岡山の現状がどうなのかというのをしっかり捉えて、そこから目標値を定めることは必要だと思うが、特に小学校が置かれている外国語活動の現状、単に語学力だけではなく、外国人とのコミュニケーションを本来高めるべきはずのものと思われるので、国の調査等の実態を踏まえながら、今後考えていく必要はあると考えている。
曾田委員	○ 数字ではなく、中身だと思うが、格差が出てきているのが、抽出調査の「今住んでいる地域や岡山市の歴史に興味や関心があるか」という項目。この項目については、小学生も中学生も「当てはまらない」という否定的な回答をした割合が多いことが特徴的である。上だけのポイントがあがるのであればかわらないだろうし、「どちらかという当てはまらない」と「当てはまらない」という否定的なところがぐっと上がらないと、全体のポイントが上がらないと思う。そういうところの分析がいる。ポイント数だけでは言えないと思うが、割と特徴的な質問紙になっているので、見えてくることもある。目標値の設定についてはお任せしたいが、中身は探してほしい。
塩田委員	○ 先日の「教育委員会の事務に関する点検・評価にかかる外部評価委員会会議」で、評価委員の方々も岡山市を誇る子どもたちが少ないということを指摘されていた。事業はしっかりやっているが、それを教育に結びつける事業をやったほうが良いと言われていた。そういった意見を参考に25年度・26年度のアクションプランに盛り込んでいけば、目標値をぐっと上回ることになるかも知れない。
委員長	○ 特に、肥塚委員がおっしゃっていたことだ。岡山を愛する心と学習習慣の定着度のところで感じるのだが、中学校になると、なぜ下がるのか。他に興味が出てくるからなのか。中学生になると勉強が忙しくなると思うが、勉強していると答える子どもの率が下がることに疑問を感じていた。いずれも小学校は60パーセントぐらいあるのに、中学校になると低くなる。これは、全国的な傾向か。
教育企画総務課長	○ 全国と比べると10ポイント近く差があるが、小学生と中学生を相対的に比べると、中学生の方が一般的に落ちる。専門的にはわからないが、教科数が増えることもあって、全教科についてできているかというところで自分を厳しく見てしまう傾向があるということや、中学生なので、素直に答えられないという部分も若干あるのかと思う。苦手な部分があり全部はできていないので、否定的な自己評価にもなることもあると思う。そのあたりの学習習慣をどうつけてかということや、発達段階に合わせて考えていく必要がある。家庭学習の時間は、学年プラス1時間と簡単に言うこともできるが、もう少し丁寧に家庭学習のあり方を考えていく必要がある。そうしないと、どうしても数値が放物線を描いてしまうところがある。その辺は先ほども言ったが、本市の大きい課題だと思っている。
塩田委員	○ 学習習慣の定着度の上昇というのは、全国学力テストの中で答えている結果からだとすると思うが、記名か無記名か。
教育企画総務課長	○ 無記名だ。ただ、1対1では見ることができる。記名した上でアンケートをとっている。
塩田委員	○ 子ども達は自分の名前を書いた上で、アンケートをとっているとすると、書きづらくなる。中学生になると、自分で自分のことを高く評価しにくい。
委員長	○ 自分でとなると、塾に行っている子は自分では計画を立てていないと思うのかも知れない。地域の文化についても、小学校では習うが、中学校では広い範囲のことを習うのでそれも影響しているかも知れない。
教育企画総務課長	○ 断片的なデータしかないが、学習習慣の定着度の上昇については、全国の平均が42.9パーセントで、それを上回るという目標値になっている。現実的な部分を見て目標値を設定している。
委員長	○ 現実を見ないと、目標が高すぎてもいけない。
教育長	○ 目標値の設定については、現状値から2.5パーセントの上昇がいいのかも含めてだいたい局内でも意見があった。今回、目標値を設定する黒枠の部分については、データとしてなかった。だからこのような設定の仕方を一応試してみ、今後、調整ができるところは調整しようということになった。目標が低すぎることにについては、超えられなかったときにどうするのかという問題もある。目標に大きな

開きがあった場合、どこで数値を設定するのが良いのか、確かに、先ほど指摘があった岡山を愛する心と国際感覚の育成の部分についても、もっと目標を高くしてほしいという気持ちはあるが、45パーセントをもっと高い55パーセントに上げたときに、実際に何をもちえて設定すればよいのか難しい。中学校には「岡山」というものを対象にした学習内容はあまりない。小学校は3・4年生で地域のことを学ぶ学習内容があるが、5年6年になると、学習の範囲が県になり、日本になる。中学になったら世界が範囲の学習になる。そうすると、何ができるかという、地元や地域と子どもたちをどう結びつけていくかだ。地域行事や岡山の行事などの中に子どもたちをどう組み込んでいくかをしっかり考えないといけない。そうすると授業とは別の話になる。授業の中には組み入れていないが、大切なのは、その部分だろうから、そうしたことをしていかないと、子どもたちに郷土や岡山、そして日本を愛する、大切に作る気持ちが育たないと思う。掲げてはいるが、各学校に対して充実を図っていく必要がある。では、それを考慮しても目標値を80パーセントぐらいにできるかという、それも設定が難しい。目標値を一律2.5パーセントアップにするのがいいのかという思いはあったが、一応ここで設定をしてみて、見直しの段階で、再度、どのようなことができるのか考える。

曾田委員

- 岡山は他の都市より広い。地元岡山を愛すると言っても、一律に同じのことはできにくい。御津は御津の郷土で良い。市の中心部にはオリエントなどがある。社会科授業の中ではできなくても、総合的な学習の中で示唆してあげて、それはここになるということにすれば、もっとポイントが上がるのではないかと思う。例えば、一律に何ポイントではなく、岡山市であれば、岡山型一貫教育を進めることで伸びてくる項目や地域協働学校をすすめることで伸びてくる項目は、目標の政策があるわけだから、ポイントを変えてもよい。それを一律全国と同じような項目で設定してしまうと不整合が起こるのではないかと思う。目標を高くして空振りになっても、検証はしないといけないが、命に関わることではない。掘り下げ方として、資料の教職員のアンケートの抽出についてだが、母数が少ないから分けられないほうがいいと思ったのかも知れないが、例えば、(2)「あなたの学校の教職員は、自校の教育課題の解決に向けて、連携・協力して組織的に取り組んでいる。」という項目も、小・中学校で分けてみると雰囲気の違いがあるのではないか。同じように、(3)の教育環境に対する数値については、環境は同じなのに、小・中学校の先生の捉え方が違っていたりすると、そこから教育内容に切り込んでいくときに特徴があるのではないか。そうすると、結果にも特徴が出てくるのではないかと思う。標本数が少ないから難しいのかも知れないが、できるだけ、細かいデータのほうに後につながると思う。

教育企画総務課長

- 28年度からが後期計画になるので、27年度中に見直しを図る。予算化をしていこうと思っているので、できれば、悉皆の調査でこの2年の実績値を出し、また、可能なら大学等の協力も得て、小・中学校別や、区別、という分析をしてみることで、区別や小・中学校別にできる対応であるかなど、もう少し踏み込んで事業を考えていく必要があると考えている。先ほどの回答になるかどうかかわからないが、「地域」の捉え方については、市全体でもいいし、自分が住んでいる地域でもよいということは、Q&Aとして作っていたので、子どもから質問が出たときには先生がそう答えることができるようにはしていた。そのあたりも含めて今後考えていきたい。

委員長

- とりあえず、目標値を現状値から2.5パーセント上げてやってみる。目標は、見えるところにセットするほうがやりがいがあるとも言われるので、第25号議案を可決してよいか。

全委員

- <承認>
- 第25号議案は原案どおり可決する
- 以上で公開議案の審議はすべて終了する。

傍 聴 の 状 況

報	道	0 名
一	般	0 名



平成25年7月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成25年7月23日（火曜日）		
2 開会及び閉会	開会	15時20分	
	閉会	16時40分	
3 出席委員	委員長	渡辺勝志	
	委員	塩田澄子	
	委員	曾田佳代子	
	委員	東條光彦	
	委員（教育長）	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	橋本拓治	教育次長	渡辺和夫
統括審議監	佐々木辰昭	審議監（学校教育担当）	天野和弘
審議監（生涯学習担当）	直本正明	教育企画総務課長	長瀬尚樹
指導課長	堀井博司	スポーツ振興課長	畑太志
事務局（教育企画総務課課長補佐）	高木宏		
5 議題及び結果			
第26号議案	岡山市スポーツ推進審議会委員の委嘱について		原案可決
第27号議案	平成26年度使用教科書用図書採択について		原案可決